



平成31年1月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年9月7日

上場会社名 株式会社ストリーム 上場取引所 東  
 コード番号 3071 URL https://www.stream-jp.com  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)松井 敏  
 問合せ先責任者 (役職名)執行役員管理本部長 (氏名)高瀬 宏平 (TEL) 03(6858)8189  
 四半期報告書提出予定日 平成30年9月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有(アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年1月期第2四半期の連結業績(平成30年2月1日~平成30年7月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年1月期第2四半期	11,138	9.6	5	△89.0	3	△92.8	△10	—
30年1月期第2四半期	10,159	△10.1	53	△61.2	47	△61.9	37	△58.8

(注) 包括利益 31年1月期第2四半期 △8百万円(—%) 30年1月期第2四半期 38百万円(△59.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年1月期第2四半期	△0 38	— —
30年1月期第2四半期	1 39	— —

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年1月期第2四半期	5,112	1,827	34.6
30年1月期	5,260	1,835	33.8

(参考) 自己資本 31年1月期第2四半期 1,768百万円 30年1月期 1,778百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年1月期	— —	0 00	— —	0 00	0 00
31年1月期	— —	0 00	— —	— —	— —
31年1月期(予想)	— —	— —	— —	0 00	0 00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成31年1月期の連結業績予想(平成30年2月1日~平成31年1月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	22,756	1.5	22	△76.8	13	△77.5	△58	—
								△2.15

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名)―、除外 1社(社名)株式会社イーベスト

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)  
② 期末自己株式数  
③ 期中平均株式数(四半期累計)

31年1月期2Q	28,525,000株	30年1月期	28,525,000株
31年1月期2Q	1,236,500株	30年1月期	1,236,500株
31年1月期2Q	27,288,500株	30年1月期2Q	27,288,500株

- ※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

当社は、平成30年9月14日(金)にアナリスト向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布する決算説明資料については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(セグメント情報等)	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(平成30年2月～平成30年7月)におけるわが国経済は、緩やかに景気が回復しており、企業収益及び雇用情勢は改善がみられ、個人消費も持ち直してきていますが、海外での経済の先行き、政策に関する不確実性による影響、金融資本市場の変動の影響等により、国内景気への影響が懸念されております。

当社グループは、お客様のライフスタイル作りのサポートとして「より良いもの」「より安く」「より適確に」「より迅速に」新しい価値観の提案・提供を通して社会の発展に貢献することを経営の基本方針に、既成概念にとらわれることなくチャレンジを続け、インターネット通販事業を中心に事業活動を行っております。

事業のセグメント別の業績は、次のとおりであります。

## ①インターネット通販事業

当第2四半期連結累計期間における国内の家電小売業界は、国際的なスポーツイベントの盛り上がり等で、4Kテレビをはじめ冷蔵庫、洗濯機の高単価商品が好調に推移しました。又、エアコンについても、平成30年6月後半に気温が上昇したこともあり好調に推移しました。

このような状況の中、当社は「楽天市場」「Yahoo!ショッピング」「Amazonマーケットプレイス」等の外部サイトの売上は、引き続きOA周辺機器・国産時計等を中心に堅調に推移しました。又、液晶テレビやタブレット等のOA機器についても前年同四半期比で伸長しており、今後も売れ筋商品の在庫施策等により更なる売上確保に努めてまいります。

サイト別では、「Amazonマーケットプレイス」について、平成29年11月に導入した在庫保管・商品配送代行サービス「フルフィルメント by Amazon (FBA)」により業務効率の改善を図り、売上は好調に推移しています。又、KDDI コマースフォワード株式会社とKDDI 株式会社が共同運営する総合通販サイト「Wowma! (ワウマ)」内に「ECカレント」「イーベスト」及び「特価COM」を、第2四半期及び第3四半期に新規出店し外部サイトへの新たな展開を図ります。

一方、オリジナルサイト「ECカレント」ではWEB接客ツールを活用し、「19周年大感謝セール」をはじめ各種プロモーションと連動させてサイトの回遊性を高め、会員登録・商品購入等のコンバージョン率(CVR)の向上に努めています。しかしながら、売上高については前年同四半期比増収ではあったものの、利益面では外部サイトの売上高増加に伴う広告宣伝費や荷造発送費の増加に加え、競合他社との価格競争に伴う対策費用の発生や滞留在庫の処分に伴う粗利益の低下により、営業利益では前年同四半期を大きく下回りました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は9,710百万円(前年同四半期比13.1%増)、営業損失8百万円(前年同四半期は87百万円の営業利益)となりました。

## インターネット通販事業の売上・来店客数推移

	売上高(百万円)	営業損益(百万円)	来客数(千人)	受注件数(千件)	会員数(千人)
当第2四半期連結累計期間	9,710	△8	6,729	726	10,873
前第2四半期連結累計期間	8,585	87	7,487	449	9,886

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含めて記載しております。

(百万円)

	家電	パソコン	周辺/デジカメ	その他	合計
当第2四半期連結累計期間	4,643	847	3,348	870	9,710
前第2四半期連結累計期間	4,505	880	2,300	899	8,585

※当該数値は、独立監査人による四半期レビューを受けておりません。

※会員数は顧客情報を登録頂いている顧客数の累計です。

## ②ビューティー&amp;ヘルスケア事業

株式会社エクスワンにおいて展開される、ビューティー&ヘルスケア事業では、新商品として、平成30年7月に、ヒト幹細胞培養液配合の化粧水「X L U X E S モイストリジュビネイターW (ダブルユー)」を発売し、売上は堅調に推移しています。

同じく平成30年7月に、新ビジネスプラン「X - t w o b i r d (エクスツーバード)」を発表し、新時代のビジネスコミュニケーションスタイルに適したオートシップをベースとするバイナリーシステムの導入を9月に予定し、会員ビジネスの更なる発展を目指します。

売上高に関しましては、会員向けビジネスの伸びが少なかった一方で訪日観光客向け免税店販売が依然好調で、ほぼ前年同四半期並みとなりました。利益面に関しては、免税店販売に関わるコストの見直しや前連結会計年度における会社創業30周年関連プロモーションの効果が出始めたこともあり、販売管理費が想定より抑えられた結果、当初計画より大幅に上回りました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,091百万円(前年同四半期比2.4%減)、営業利益23百万円(前年同四半期比203.3%増)となりました。

## ビューティー&amp;ヘルスケア事業の売上推移

(百万円)

	パーソナルケア	ヘルスケア	その他	合計
当第2四半期連結累計期間	906	128	55	1,091
前第2四半期連結累計期間	905	161	51	1,118

## ③その他事業(「各種販売支援事業」、「オンライン・ゲーム事業」)

「各種販売支援事業」では、国内免税店30店舗において訪日観光客向け販売支援を行っております。

訪日観光客の動向に関しましては、航空路線の新規就航や増便、チャーター便の就航による航空座席供給量の増加に加え、継続的に展開している訪日旅行プロモーションの効果もあり、訪日観光客数全体としては好調に推移しました。観光庁の観光統計によりますと、平成30年1月～6月期における「訪日外国人旅行者数」は前年同期比15.6%増の推計1,589万人、消費総額は同期間で前年同期比9.3%増の2兆2,354億円となりました。

その中で、株式会社エクスワンの扱う化粧品は各免税店にて引き続き販売の上位を占めています。

「オンライン・ゲーム事業」では、共同企画・運営を行っているタイトルが、安定的な売上を維持しています。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は517百万円(前年同四半期比27.9%減)、営業利益135百万円(前年同四半期比39.2%増)となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は11,138百万円(前年同四半期比9.6%増)、営業利益5百万円(前年同四半期比89.0%減)、経常利益3百万円(前年同四半期比92.8%減)、親会社株主に帰属する四半期純損失10百万円(前年同四半期は37百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産の部)

当第2四半期連結会計期間末における資産は、前連結会計年度末に比べ147百万円減少し、5,112百万円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金50百万円増加、現金及び預金169百万円減少、商品14百万円減少によるものであります。

(負債の部)

当第2四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ138百万円減少し、3,285百万円となりました。これは主に、未払金27百万円増加、買掛金73百万円減少、長期借入金(1年内返済予定の長期借入金を含む)80百万円減少によるものであります。

(純資産の部)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ8百万円減少し、1,827百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失10百万円の計上によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ170百万円減少し、449百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において営業活動の結果使用した資金は、19百万円(前年同四半期は192百万円増加)となりました。収入の主な内訳は、非資金項目である減価償却費94百万円、たな卸資産の減少額11百万円であり、支出の主な内訳は、売上債権の増加額50百万円、仕入債務の減少額73百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において投資活動の結果使用した資金は、69百万円(前年同四半期は73百万円使用)となりました。収入の主な内訳は、差入保証金の回収による収入31百万円であり、支出の主な内訳は、無形固定資産の取得による支出59百万円、差入保証金の差入による支出39百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において財務活動の結果使用した資金は、81百万円(前年同四半期は111百万円使用)となりました。支出の主な内訳は、長期借入金の返済による支出80百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成31年1月期の業績予想に関しましては、平成30年9月6日に公表いたしました業績予想から変更はありません。

なお、今後、業績予想の修正の必要性が生じた場合には速やかに開示する予定であります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年1月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年7月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	621,373	451,378
受取手形及び売掛金	1,159,748	1,210,214
商品	2,434,469	2,420,455
その他	106,139	111,641
流動資産合計	4,321,731	4,193,690
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	131,501	128,005
車両運搬具(純額)	9,283	6,495
工具、器具及び備品(純額)	47,666	47,962
土地	2,003	2,003
有形固定資産合計	190,455	184,466
無形固定資産		
ソフトウェア	367,811	355,809
その他	27,596	21,599
無形固定資産合計	395,408	377,409
投資その他の資産		
投資有価証券	12,648	12,683
出資金	270	270
差入保証金	333,969	338,418
その他	21,919	21,798
貸倒引当金	△15,876	△15,876
投資その他の資産合計	352,930	357,293
固定資産合計	938,794	919,169
資産合計	5,260,525	5,112,860

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年1月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年7月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,518,146	1,444,526
短期借入金	1,000,000	1,000,000
1年内返済予定の長期借入金	138,800	102,800
未払金	319,814	347,209
未払法人税等	40,028	20,240
賞与引当金	5,466	5,666
ポイント引当金	18,028	11,673
その他	139,436	145,627
流動負債合計	3,179,720	3,077,743
固定負債		
長期借入金	144,420	100,020
繰延税金負債	2,626	1,685
その他	97,857	106,409
固定負債合計	244,903	208,114
負債合計	3,424,623	3,285,858
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	924,429	924,429
資本剰余金	876,888	876,888
利益剰余金	129,570	119,249
自己株式	△152,609	△152,609
株主資本合計	1,778,278	1,767,958
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	269	303
その他の包括利益累計額合計	269	303
非支配株主持分	57,353	58,739
純資産合計	1,835,902	1,827,001
負債純資産合計	5,260,525	5,112,860



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年2月1日 至平成29年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年2月1日 至平成30年7月31日)
売上高	10,159,743	11,138,354
売上原価	7,841,109	8,597,392
売上総利益	2,318,633	2,540,962
販売費及び一般管理費	2,264,864	2,535,055
営業利益	53,769	5,907
営業外収益		
受取利息	142	47
受取配当金	9	17
受取手数料	326	62
為替差益	-	4,390
その他	370	703
営業外収益合計	849	5,220
営業外費用		
支払利息	3,074	5,556
支払手数料	2,333	1,244
為替差損	1,993	-
その他	-	945
営業外費用合計	7,400	7,746
経常利益	47,217	3,381
特別利益		
固定資産売却益	84	535
新株予約権戻入益	12,017	-
特別利益合計	12,102	535
特別損失		
減損損失	6,490	-
特別損失合計	6,490	-
税金等調整前四半期純利益	52,829	3,917
法人税等	14,450	12,852
四半期純利益又は四半期純損失(△)	38,379	△8,934
非支配株主に帰属する四半期純利益	535	1,385
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	37,843	△10,320

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年2月1日 至平成29年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年2月1日 至平成30年7月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	38,379	△8,934
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	49	34
その他の包括利益合計	49	34
四半期包括利益	38,428	△8,900
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	37,893	△10,286
非支配株主に係る四半期包括利益	535	1,385

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年2月1日 至平成29年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年2月1日 至平成30年7月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	52,829	3,917
減価償却費	122,043	94,162
減損損失	6,490	-
賞与引当金の増減額(△は減少)	-	200
ポイント引当金の増減額(△は減少)	△3,288	△6,355
受取利息及び受取配当金	△151	△64
支払利息	3,074	5,556
新株予約権戻入益	△12,017	-
為替差損益(△は益)	66	142
固定資産除売却損益(△は益)	△84	△535
売上債権の増減額(△は増加)	122,362	△50,466
たな卸資産の増減額(△は増加)	△103,793	11,867
仕入債務の増減額(△は減少)	76,398	△73,619
その他	△33,013	31,590
小計	230,917	16,396
利息及び配当金の受取額	27	717
利息の支払額	△3,067	△5,278
法人税等の支払額	△35,356	△31,062
営業活動によるキャッシュ・フロー	192,521	△19,227
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△300	△300
有形固定資産の取得による支出	△4,407	△942
有形固定資産の売却による収入	550	-
無形固定資産の取得による支出	△68,882	△59,888
差入保証金の差入による支出	△1,074	△39,324
差入保証金の回収による収入	618	31,047
その他	218	48
投資活動によるキャッシュ・フロー	△73,276	△69,359
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△50,000	-
長期借入れによる収入	100,000	-
長期借入金の返済による支出	△160,350	△80,400
その他	△1,189	△1,307
財務活動によるキャッシュ・フロー	△111,539	△81,707
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	-
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	7,705	△170,294
現金及び現金同等物の期首残高	176,454	619,523
現金及び現金同等物の四半期末残高	184,159	449,228

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

## (セグメント情報等)

## I 前第2四半期連結累計期間(自平成29年2月1日至平成29年7月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結損益計算書計上額
	インターネット通販事業	ビューティ&ヘルスケア事業	その他事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	8,584,703	1,114,337	460,702	10,159,743	—	10,159,743
セグメント間の内部売上高又は振替高	626	4,077	256,662	261,366	△261,366	—
計	8,585,329	1,118,414	717,365	10,421,109	△261,366	10,159,743
セグメント利益	87,998	7,778	97,282	193,059	△139,289	53,769

- (注) 1. セグメント利益の調整額△139,289千円は、セグメント間取引消去△151千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△139,138千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社管理部門に係る一般管理費であります。
2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。
3. その他事業は、各種販売支援事業及びオンライン・ゲーム事業であります。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

その他事業に含めて記載しているオンライン・ゲーム事業において、一部のサービスの終了に伴い、今後使用見込みのない資産全額を減損処理したことにより、6,490千円を減損損失として特別損失に計上しております。

## II 当第2四半期連結累計期間(自平成30年2月1日至平成30年7月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結損益計算書計上額
	インターネット通販事業	ビューティ&ヘルスケア事業	その他事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	9,710,341	1,084,883	343,129	11,138,354	—	11,138,354
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	6,451	174,410	180,862	△180,862	—
計	9,710,341	1,091,335	517,540	11,319,217	△180,862	11,138,354
セグメント利益又は損失(△)	△8,537	23,595	135,382	150,440	△144,533	5,907

- (注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△144,533千円は、セグメント間取引消去△264千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△144,269千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社管理部門に係る一般管理費であります。
2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。
3. その他事業は、各種販売支援事業及びオンライン・ゲーム事業であります。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。